



令和7年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

令和7年1月14日

上場会社名 アクサホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 3536 URL <https://www.axas-hd.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 久岡 卓司
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 新藤 達也 TEL 078-391-4000
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 令和7年8月期第1四半期の連結業績（令和6年9月1日～令和6年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
7年8月期第1四半期	2,708	△3.1	16	—	△30	—	△50	—
6年8月期第1四半期	2,795	4.0	△37	—	△69	—	△55	—

(注) 包括利益 7年8月期第1四半期 △47百万円 (—%) 6年8月期第1四半期 △53百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
7年8月期第1四半期	△1.68	—
6年8月期第1四半期	△1.84	—

※ 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
7年8月期第1四半期	17,593	1,918	10.9	63.28
6年8月期	16,607	2,026	12.2	66.83

(参考) 自己資本 7年8月期第1四半期 1,918百万円 6年8月期 2,026百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
6年8月期	—	0.00	—	2.00	2.00
7年8月期	—	—	—	—	—
7年8月期(予想)	—	0.00	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 令和7年8月期の連結業績予想（令和6年9月1日～令和7年8月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	6,253	4.4	161	—	88	—	96	—	3.18
通期	12,347	5.4	408	—	262	—	250	696.9	8.24

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	7年8月期1Q	30,325,252株	6年8月期	30,325,252株
② 期末自己株式数	7年8月期1Q	1株	6年8月期	1株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	7年8月期1Q	30,325,251株	6年8月期1Q	30,325,252株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(取得による企業結合)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間（令和6年9月1日から令和6年11月30日まで）のわが国の経済は、米欧各国の中央銀行による金融引き締めや中東情勢の緊迫化等により世界経済の減速懸念が強まる中、国内においては、雇用・所得環境の改善等に伴い経済情勢は緩やかな回復がみられる一方で、世界的な原材料価格の高止まりや長引く円安の影響等によりガソリンや水光熱費、食料品といった生活必需品が高騰し、消費者の生活防衛意識が高まってきております。そのような経済環境のなか、当社グループは、お客様の日常から最も近いところから「本当にいいものや必要とされるものを見極める感性を磨き続け、良質な提案をスピーディーにお届けすること」を最重要使命とし、グループ全体でお客様、そして地域社会の生活文化の質的な向上を「美・健康・ゆとりの側面」から応援し、顧客満足、社員満足を高めていくことで会社満足も高め、これら3つの満足によってグループ価値の更なる向上に努め、株主様、取引先様をはじめとするすべての関係者の皆様への利益還元と社会貢献の実現を目指しております。

具体的な取り組みとして、令和6年9月、世界各地の蒸溜所にて製造された商品や、1,000種類以上のウイスキーを取り揃えた山城WHISKY（徳島県徳島市）をオープンし、同年10月、インポートコスメ・フレグランス・一般化粧品・生活雑貨・食品等を取り扱う&1u1u長崎スタジアムシティ（長崎県長崎市）及びウイスキーの量り売り用熟成樽とアンティーク家具を什器として、国内外のウイスキーを取り揃えた長崎S.C.WHISKY（長崎県長崎市）を長崎県に初出店いたしました。同年同月、自社リソースで物流業務を内製化し業務の効率化を図ることにより、物流コストを長期的に削減する目的で、同年8月に閉店したチャーリー藍住店（徳島県板野郡）を、各店舗への配送やEC販売の配送を担う自社物流センターに転換し、運用を開始いたしました。また、同年11月、アレックススポーツブルメール舞多聞（神戸市垂水区）において、施設の2階から通行量が多く見込める1階に移転し、リニューアルオープンいたしました。また、同年同月、衣・食・住のトータルライフスタイルに寄り添ったアイテムをセレクトしたアレックスコンフォートラソラ札幌（札幌市白石区）を北海道に初出店いたしました。その一方で、同年9月、青山WHISKY Authentic Bar 2021（東京都渋谷区）及びデコールグリーン万代倉庫（徳島県徳島市）を閉店いたしました。

その結果、当第1四半期連結会計期間末におけるグループ店舗数は、36店舗となりました。

また、令和6年10月1日、当社連結子会社であるアクサス株式会社（以下、「アクサス」という）が、株式会社GIVERS（以下、「対象会社」という）の全株式を取得し、当社の連結子会社（孫会社）といたしました。対象会社の保有する企画及び生産機能を当社グループに取り入れることができ、売上の拡大を図るとともに、オリジナル商品の展開をすることにより利益率の向上が図れております。また、対象会社の所有する商品を当社グループにて取り扱うことにより、売上の拡大を図ることが可能となり、加えて、対象会社が所有しているエステサロン業界の販売網に対し当社グループの商材を展開することにより、双方の売上及び利益の拡大につながることとなり、対象会社を含む当社グループの業容拡大及び企業価値の向上に寄与しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高は2,708百万円（前年同四半期比3.1%減）となり、営業利益は16百万円（前年同四半期は営業損失37百万円）、経常損失は30百万円（前年同四半期は経常損失69百万円）となりました。法人税等を計上し、親会社株主に帰属する四半期純損失は50百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失55百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

① 小売事業

小売事業につきましては、ヘルス&ビューティーケアユニットでは、プレミアムヘアケア市場でニーズの高いブランド商品の販売や、粉質にこだわったスキンケアパウダー商品の販売が好調に推移した一方で、高単価ボディケア商品の販売が苦戦いたしました。

ライフスタイルユニットでは、素材から縫製まで日本製にこだわった物づくりを行う新規ブランドのバッグ等の販売が好調に推移した一方で、10月以降も気温が下がらず、冬物アパレルの販売が苦戦いたしました。

アスレユニットでは、プロサッカーチーム関連やマラソン大会関連の販売が好調に推移いたしましたが、前述のアレックススポーツブルメール舞多聞店の移転・リニューアルのための一時休業の影響により売上を伸ばすには至りませんでした。

ホームキーパーユニットでは、リビングで行う学習スタイル関連の学童用品の販売が好調に推移した一方で、専門文具等筆記用具の販売が苦戦いたしました。

アルコユニットでは、一部の店舗においてインバウンド需要がやや減少したものの、高単価のウイスキーや高級ブランドの販売が各店舗やECサイトにおいて好調に推移いたしました。

ECユニットでは、前連結会計年度において好調だったベビーカトラリーの販売が落ち着いてきた一方で、優れ

た消臭・抗菌効果の高い靴の消臭パウダーやウイスキー等の酒類の販売が好調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は1,846百万円（前年同四半期比5.9%減）、セグメント利益は30百万円（前年同四半期はセグメント損失13百万円）となりました。

② 卸売事業

卸売事業につきましては、長引く円安の影響等により商品価格の高騰が続いており消費者の買い控えが見られました。また、これまで拡大を続けておりましたインバウンド消費の衣服感もあり、ラグジュアリーブランド等、高付加価値商品の売上が落ち込みました。一方で、価格に敏感な消費者をターゲットとした、コストパフォーマンスの高いワンコインワインや、家飲み需要に適した低価格ウイスキー等について新たな販路を拡大したことにより売上は伸びました。六甲山蒸溜所においては、様々なイベント等での露出や、百貨店マーケット等、様々な流通マーケットへ展開したことにより売上は伸びました。

また、長引く円安に対応すべくアセアン諸国を中心とする海外への輸出事業の販路拡大の強化を図ってまいりました。

これらの結果、売上高は975百万円（前年同四半期比8.6%増）、セグメント利益は30百万円（同34.9%増）となりました。

③ 不動産賃貸事業

不動産賃貸事業につきましては、所有物件の価値を維持、向上させることにより、物件の高稼働を維持しており、既存テナントから安定した売上を確保しております。また、一部店舗において、現状の収益と不動産賃貸事業へ転換した場合の収益の将来キャッシュ・フローを比較検討し、不動産賃貸事業への転換がより合理的であると判断した店舗について不動産賃貸事業へ転換いたしました。また、令和6年9月、良好な不動産マーケットにあり、安定的に収益が見込めるテナント収益物件（神戸市中央区）を一棟購入いたしました。

これらの結果、売上高は162百万円（前年同四半期比0.3%減）、セグメント利益は49百万円（同27.1%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は17,593百万円（前期末比5.9%増）となり、前連結会計年度末に比べ986百万円増加しました。これは主に、棚卸資産602百万円、売掛金257百万円、建物及び構築物206百万円、土地584百万円等の増加に対し、現金及び預金751百万円等の減少によるものであります。

負債合計は15,674百万円（同7.5%増）となり、前連結会計年度末に比べ1,093百万円増加しました。これは主に、買掛金344百万円、短期借入金900百万円等の増加に対し、1年内返済予定の長期借入金を含む長期借入金90百万円等の減少によるものであります。

純資産合計は1,918百万円（同5.3%減）となり、前連結会計年度末に比べ107百万円減少しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失50百万円、配当金の支払60百万円による利益剰余金の減少に対し、その他有価証券評価差額金3百万円の増加によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は10.9%（同1.3ポイント減）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、令和6年10月15日付「令和6年8月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」にて公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって変動する可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和6年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和6年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,341,582	590,085
売掛金	459,506	716,951
棚卸資産	4,240,250	4,843,195
預け金	8,332	8,136
未収還付法人税等	464	464
その他	188,865	237,307
流動資産合計	6,239,002	6,396,142
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,069,754	2,276,494
機械装置及び運搬具（純額）	239,272	233,091
什器備品（純額）	268,916	261,167
リース資産	23,316	35,724
土地	5,708,260	6,292,318
有形固定資産合計	8,309,518	9,098,797
無形固定資産		
のれん	505,455	547,942
借地権	58,348	58,348
ソフトウェア	103,260	96,629
電話加入権	7,821	7,821
無形固定資産合計	674,886	710,743
投資その他の資産		
投資有価証券	180,874	186,715
繰延税金資産	323,312	321,354
敷金及び保証金	532,037	532,599
破産更生債権等	4,686	4,686
その他	337,053	337,678
貸倒引当金	△4,686	△4,686
投資その他の資産合計	1,373,278	1,378,348
固定資産合計	10,357,684	11,187,888
繰延資産		
社債発行費	10,539	9,256
繰延資産合計	10,539	9,256
資産合計	16,607,225	17,593,288

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和6年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和6年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	437,051	781,555
短期借入金	8,260,000	9,160,000
1年内返済予定の長期借入金	372,480	372,480
1年内償還予定の社債	300,000	300,000
リース債務	6,933	9,371
未払法人税等	33,723	11,225
賞与引当金	21,086	30,699
未払金	178,322	173,327
その他	167,598	90,189
流動負債合計	9,777,196	10,928,848
固定負債		
社債	500,000	500,000
長期借入金	3,640,605	3,549,985
リース債務	19,238	30,478
役員退職慰労引当金	100,694	100,755
資産除去債務	196,643	198,415
受入保証金	319,246	341,602
繰延税金負債	2,719	2,719
その他	24,259	21,537
固定負債合計	4,803,406	4,745,493
負債合計	14,580,602	15,674,341
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	1,686,487	1,686,487
利益剰余金	237,405	125,879
自己株式	△0	△0
株主資本合計	1,973,892	1,862,366
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	52,730	56,580
その他の包括利益累計額合計	52,730	56,580
純資産合計	2,026,623	1,918,946
負債純資産合計	16,607,225	17,593,288

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和5年9月1日 至 令和5年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和6年9月1日 至 令和6年11月30日)
売上高	2,795,942	2,708,732
売上原価	2,065,865	1,978,011
売上総利益	730,076	730,720
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	239,559	199,976
その他	527,959	514,627
販売費及び一般管理費合計	767,519	714,603
営業利益又は営業損失(△)	△37,442	16,117
営業外収益		
受取利息	54	1,494
その他	1,695	1,656
営業外収益合計	1,750	3,150
営業外費用		
支払利息	26,479	34,405
為替差損	4,601	11,893
その他	2,918	3,426
営業外費用合計	33,999	49,726
経常損失(△)	△69,691	△30,458
特別損失		
固定資産除却損	—	1,054
閉店損失	—	13,605
特別損失合計	—	14,659
税金等調整前四半期純損失(△)	△69,691	△45,117
法人税、住民税及び事業税	6,130	5,790
法人税等調整額	△20,175	△32
法人税等合計	△14,044	5,758
四半期純損失(△)	△55,646	△50,875
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△55,646	△50,875

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和5年9月1日 至 令和5年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和6年9月1日 至 令和6年11月30日)
四半期純損失(△)	△55,646	△50,875
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,183	3,849
その他の包括利益合計	2,183	3,849
四半期包括利益	△53,462	△47,026
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△53,462	△47,026

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 令和5年9月1日 至 令和5年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報 告 セ グ メ ン ト			
	小 売 事 業	卸 売 事 業	不動産賃貸事業	計
売上高				
顧客との契約から生じる収益	1,835,840	798,253	—	2,634,093
その他の収益	—	—	161,427	161,427
外部顧客への売上高	1,835,840	798,253	161,427	2,795,521
セグメント間の内部売上高又は振替高	126,140	100,184	1,199	227,523
計	1,961,980	898,437	162,627	3,023,045
セグメント利益又は損失(△)	△13,516	22,724	67,978	77,186

(単位:千円)

	その他(注)1	合 計	調整額(注)2	四半期連結 損益計算書 計上額(注)3
売上高				
顧客との契約から生じる収益	420	2,634,514	—	2,634,514
その他の収益	—	161,427	—	161,427
外部顧客への売上高	420	2,795,942	—	2,795,942
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	227,523	△227,523	—
計	420	3,023,466	△227,523	2,795,942
セグメント利益又は損失(△)	399	77,585	△115,027	△37,442

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△115,027千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 令和6年9月1日 至 令和6年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報 告 セ グ メ ン ト			
	小 売 事 業	卸 売 事 業	不動産賃貸事業	計
売上高				
顧客との契約から生じる収益	1,704,826	842,647	—	2,547,474
その他の収益	—	—	160,832	160,832
外部顧客への売上高	1,704,826	842,647	160,832	2,708,307
セグメント間の内部売上高又は振替高	142,150	133,189	1,285	276,625
計	1,846,977	975,836	162,118	2,984,932
セグメント利益又は損失(△)	30,187	30,660	49,555	110,403

(単位:千円)

	その他(注)1	合 計	調整額(注)2	四半期連結 損益計算書 計上額(注)3
売上高				
顧客との契約から生じる収益	425	2,547,900	—	2,547,900
その他の収益	—	160,832	—	160,832
外部顧客への売上高	425	2,708,732	—	2,708,732
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	276,625	△276,625	—
計	425	2,985,358	△276,625	2,708,732
セグメント利益又は損失(△)	△150	110,252	△94,135	16,117

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業を含んでおりません。

2. セグメント利益又は損失の調整額△94,135千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和5年9月1日 至 令和5年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和6年9月1日 至 令和6年11月30日)
減価償却費	79,536千円	79,203千円
のれんの償却額	9,052千円	9,925千円

(取得による企業結合)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	事業の内容
株式会社G I V E R S	サプリメント・化粧品のおEM製造 (企画・デザイン・製造・納品)

(2) 企業結合を行った主な理由

株式会社G I V E R S (以下、「対象会社」という)の保有する企画及び生産機能を当社グループに取り入れることにより、売上の拡大及び利益率の向上が見込まれます。加えて、当社グループにて対象会社の取り扱う商品を販売することにより売上の拡大を図ることができ、対象会社が保有するエステサロン業界に対する販売網に対し、当社グループの商材を展開することにより、双方の売上及び利益の拡大が見込まれるため、対象会社を含む当社グループの業容拡大及び企業価値の向上に寄与すると判断し、当社連結子会社であるアクサスが対象会社の全株式を取得し当社の連結子会社(孫会社)といたしました。

(3) 企業結合日

令和6年10月1日(株式取得日)

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更ありません。

(6) 取得する議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社連結子会社であるアクサスが、現金を対価として株式を取得することによるものです。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

令和6年10月1日から令和6年11月30日

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	109,000千円
取得原価		109,000千円

4. 主要な取得関連費用の内訳

アドバイザーに対する報酬・手数料等	26,342千円
-------------------	----------

5. 取得原価の配分に関する事項

(1) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びに主な内訳

流動資産	110,366千円
固定資産	2,668千円
流動負債	47,558千円
固定負債	8,890千円

(2) 発生したのれんの金額

52,413千円

(3) 発生原因

今後の事業展開により期待される超過収益力であります。

(4) 償却方法及び償却期間

15年間にわたる均等償却